

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	半田警察署庁舎	階数	地上5F
建設地	愛知県半田市出口町1丁目31	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	173 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年9月 予定	評価の実施日	2022年12月12日
敷地面積	5,647 m ²	作成者	鈴木 雄一郎
建築面積	1,209 m ²	確認日	2022年12月15日
延床面積	5,417 m ²	確認者	鈴木 雄一郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 86%

③上記+②以外の 86%

④上記+ 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: right;">3.5 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: right;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	3.5 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	3.5 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">4.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>スギ、ヒノキ</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>県産木材</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
半田警察署庁舎

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版:
CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体	
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体		
	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										3.0	
Q1 室内環境										3.0	
1 音環境					0.1	2.8	0.15	-	-	-	2.8
1.1 室内騒音レベル					3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
1.2 遮音					0.4	2.6	0.40	-	-	-	
1 開口部遮音性能					-	3.0	0.60	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能					-	2.0	0.40	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	-	-	3.0	-	
1.3 吸音					-	3.0	0.20	-	3.0	-	
2 温熱環境					0.3	2.4	0.35	-	-	-	2.4
2.1 室温制御					0.5	3.0	0.50	-	-	-	
1 室温					3.0	3.0	0.38	-	3.0	-	
2 外皮性能					3.0	3.0	0.25	-	3.0	-	
3 ゾーン別制御性					3.0	3.0	0.38	-	-	-	
2.2 湿度制御					3.0	3.0	0.20	-	3.0	-	
2.3 空調方式					3.0	1.0	0.30	-	3.0	-	
3 光・視環境					0.2	3.8	0.25	-	-	-	3.8
3.1 昼光利用					0.3	4.2	0.30	-	-	-	
1 昼光率				昼光率:2.8	3.0	5.0	0.60	-	5.0	-	
2 方位別開口					-	-	-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備					3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 グレア対策					0.3	4.0	0.30	-	-	-	
1 昼光制御				ブラインド及び庇にて制御	5.0	4.0	1.00	-	3.0	-	
3.3 照度				全般照明方式で照度が600LX以上	3.0	4.0	0.15	-	3.0	-	
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.25	-	3.0	-	
4 空気環境					0.2	3.5	0.25	-	-	-	3.5
4.1 発生源対策					0.5	4.0	0.50	-	-	-	
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆の建材使用	3.0	4.0	1.00	-	4.0	-	
4.2 換気					0.3	2.3	0.30	-	-	-	
1 換気量					3.0	3.0	0.33	-	3.0	-	
2 自然換気性能					3.0	3.0	0.33	-	1.0	-	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	1.0	0.33	-	3.0	-	
4.3 運用管理					0.2	4.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
2 喫煙の制御				建物内禁煙	3.0	5.0	0.50	-	-	-	
Q2 サービス性能							0.30	-	-	-	3.6
1 機能性					0.4	3.4	0.40	-	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ					0.4	3.3	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性					3.0	3.0	0.33	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				複数通信事業者の回線が引込可能である	3.0	4.0	0.33	-	3.0	-	
3 パリアフリー計画				独自 県条例を準拠	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1.2 心理性・快適性					0.3	2.6	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)				天井高さ:2.6m	3.0	3.0	0.33	-	4.0	-	
2 リフレッシュスペース					3.0	2.0	0.33	-	-	-	
3 内装計画					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1.3 維持管理					0.3	4.5	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				勾配による害鳥対策及び金属にメッキ処理等	3.0	5.0	0.50	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				OAフロア採用により、配線の自由度を確保	-	4.0	0.50	-	-	-	
2 耐用性・信頼性					0.3	4.0	0.31	-	-	-	4.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.4	4.6	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				重要度係数1.5	3.0	5.0	0.80	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	3.1	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.23	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					-	2.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	3.0	0.09	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				浴室、ユニットシャワーの排気系統にステンレスダクトを採用	-	4.0	0.08	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水:VLP、排水:VP	-	5.0	0.15	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.23	-	-	-	
2.4 信頼性					0.1	4.2	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備				熱源に電気・ガスを利用、耐震クラスAにて計画	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				節水型器具を採用、汚水一時貯留槽設置、受水槽に蛇口を設置	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備				非常用発電機、電源接続盤あり。地下に電源設備なし。	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法				耐震クラスA	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備				通信手段の多様化を図っている。通信の2引込みが可能。	3.0	5.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.2	3.5	0.29	-	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり		②	階高:4.20m 壁長さ比率:0.19	0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	4.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	3.0	0.17	-	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	5.0	0.11	-	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
壁面敷設ケーブルは配管保護により更新可能										
Q3 室外環境(敷地内)						0.30	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	底に県産材木材を使用	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.3
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.78	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				3.0	3.1	0.30	-	-	-	3.1
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水型器具、擬音装置を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	スケルトンインフィルを採用	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2が一般の建物同等	-	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	余裕のある駐車場及び来庁舎と職員の動線分離	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
半田警察署庁舎

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10
② 資源の有効活用			3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	4.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:3.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	4.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-
			スギ、ヒノキ
			県産木材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 半田警察署庁舎

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ①逃走防止・侵入防止を徹底し、情報・証拠品を確実に防護するセキュリティ確保 ②すべての人にとって安全安心の象徴として、使いやすく訪れやすい庁舎 ③災害発生後の活動に備え、万全な治安維持機能を継続発揮できる庁舎 ④変化へ対応するモデル庁舎の手本として、普遍的な建物機能を徹底強化
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・深い軒の出を用いた日射制御 ・各諸室のグレードに応じて適切な仕上の採用 ・内装仕上にF☆☆☆☆を全面的に採用 ・建物内禁煙
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスしやすいバルコニー・屋上設備スペース ・重要度係数I=1.5 ・熱源に電気／ガスを採用、重要室は非常用発電機により災害時対応 ・緊急用汚水槽設置 ・受変電設備・自家発電機を屋上に設置、通信機械室を5階に設置
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・段・傾斜路が無く、滑りにくく平坦な表面仕上 ・エントランスに大きな庇を計画
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・深い軒の出を用いた日射制御 ・開口部に複層ガラスの採用 ・高効率機器の採用 ・節水型衛生器具、擬音装置の採用
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・躯体と内装仕上げの分離が容易、OAフロアの採用 ・F☆☆☆☆の建材使用
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な駐車場 ・敷地外への騒音・振動の配慮
その他	特になし